

編集後記

私は川の流れを見るとその流れがどこから来たのか気になります。物事の源流を知りたくなるという意味では研究に通ずるものがあるのでしょうか。

川の流れの源は分水嶺（あるいは分水界）と呼ばれ、地図上では曲線になります。そして、水という人の生活に不可欠なものを供給するからか、その地域の地形を反映するからか、分水嶺の多くは市町村の境あるいは県境と一致します。核融合プラズマ研究の一大拠点がある岐阜県土岐市にはπ字型に川が流れています。π字の上辺が土岐川、右足と左足がその支流である妻木川、肥田川にそれぞれ対応します。土岐市の北辺は土岐川水域と木曾川水域の境になり、南辺は妻木川と肥田川の分水嶺で、それは岐阜県と愛知県の境でもあります。

京都府南部にある核融合プラズマ研究の拠点がある宇治市には宇治川が流れ、レーザー研究の拠点がある木津川市には木津川が流れています。宇治川の分水嶺は基本的に滋

賀県の県境を形成し、滋賀県に降った雨は琵琶湖にそそぎ、琵琶湖から流れ出る唯一の川は瀬田川で、京都府に入ると宇治川と呼ばれます。宇治川水域の南側は木津川水域となり、滋賀県と三重県の境にある御齊峠（おとぎ峠）は宇治川水域と木津川水域を分ける峠です。おとぎ峠は、その昔、伊賀の国と近江の国の境であり、司馬遼太郎の小説「梟の城」はこの場所から物語が始まります。

学会事務局がある名古屋市からは、晴れた日に伊吹山や御在所山が見えます。それらの頂の向こう側に降った雨は琵琶湖を経由し宇治川になり京都南部を迂回して淀川になり大阪湾にそそがれることを思うと、学会事務局の窓から見る風景も少し違う色彩を帯びるような気がします。

編集委員会の企画幹事を一年間務めさせていただきました。編集会議では私の至らぬ部分を豊田先生と森先生に助けていただき、感謝しております。この場をかりてお礼申し上げます。（石澤明宏）

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小森 彰夫	副会長	吉田 善章(推薦委員長:学会賞,男女共同参画委員長)	白谷 正治(推薦委員長:研究助成)
常務理事	室賀 健夫(総務委員長)			
理 事	浅野 克彦(財務委員長)	浅野 史朗	上田 良夫(年会運営委員会プログラム委員長)	
	内野喜一郎(支部・地区研究連絡会委員長)	小野 靖(年会運営委員長)	岸本 泰明(研究部会連絡委員長)	
	草間 義紀	久保 博孝(広報委員長)	坂本 瑞樹	
	佐々木浩一(企画委員長)	白神 宏之	豊田 浩孝	
	長谷川 晃	波多野雄治(編集委員長)		
監 事	利根川 昭, 森田 純子			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 波多野雄治(富山大) 副委員長: 坂本瑞樹(筑波大)
エディタ: 金子俊郎(東北大), 坂本瑞樹(筑波大), 中村祐司(京大), 長友英夫(阪大), 小西哲之(京大), 酒井 道(滋賀県立大)
編集委員: 安堂正己(量研機構), 石野雅彦(量研機構), 稲垣 滋(九大), 伊庭野健造(阪大), 太田貴之(名城大), 大西直文(東北大), 小田昭紀(千葉工大), 小田卓司(ソウル国立大), 神吉隆司(海上保安大), 古閑一憲(九大), 齋藤和史(宇都宮大), 佐々木徹(長岡技科大), 佐藤雅彦(核融合研), 清水昭博(核融合研), 須田善行(豊橋技科大), 高橋裕己(核融合研), 高橋光俊(助川電気工業), 龍野智哉(電通大), 近田拓未(静岡大), 仲野友英(量研機構), 西塚直人(NICT), 比村治彦(京都工繊大), 村上朝之(成蹊大), 八木重郎(核融合研), 八柳祐一(静岡大), 柳 長門(核融合研), 余語覚文(阪大), 渡邊裕樹(首都大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第92巻第8号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2016年(平成28年)8月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。